



◆ 歌川広重 六十余州名所図会「遠江」
嘉永6年～安政3年(1853～1856) 浜松市美術館

【解説】
作者の小野湖山は、幕末・明治の漢詩人。詩中の「小赤壁」とは、館山寺西北岸にある「チャート海岸」を指す。この赤褐色の岸壁を中国の赤壁になぞらえた。赤壁は現在の湖北省黄州にある、いわゆる「東坡赤壁」である。「蘇老」とは北宋の文人蘇軾(号は東坡)を指す。蘇軾は「前赤壁の賦」(念奴嬌)など、赤壁にちなむ作品を詠んだ。

【訳】
湖の浜辺にはかねて名勝があり
「小赤壁」と呼ばれている
毎年ここに明るい月が輝く
蘇軾を慕つてこの風景を
詩文に詠じるひとはないのか

誰追蘇老跡

呼做小赤壁

年年明月好

湖浜古名勝

館山の秋月

小野湖山

誰か追わん 蘇老の跡と

呼び做す 小赤壁と

年年 明月好し

湖浜 古の名勝

館山の秋月

小野湖山

交通アクセス



撮影地: 静岡県浜松市西区館山寺町
【バス】浜松駅バスタークナリ1番乗場から
乗車「館山寺温泉」下車 徒歩約10分
【車】東名高速道路
浜松西ICから約17分
三ヶ日ICから約35分

周辺情報



地元で採れる牡蠣を浜松名物のうなぎの蒲焼のタレで焼き、海苔などを添えた丼御飯に乗せたものを「牡蠣カバ丼」として提供。
平成22年の「全国新・ご当地グルメ選手権」では準優勝を獲得。

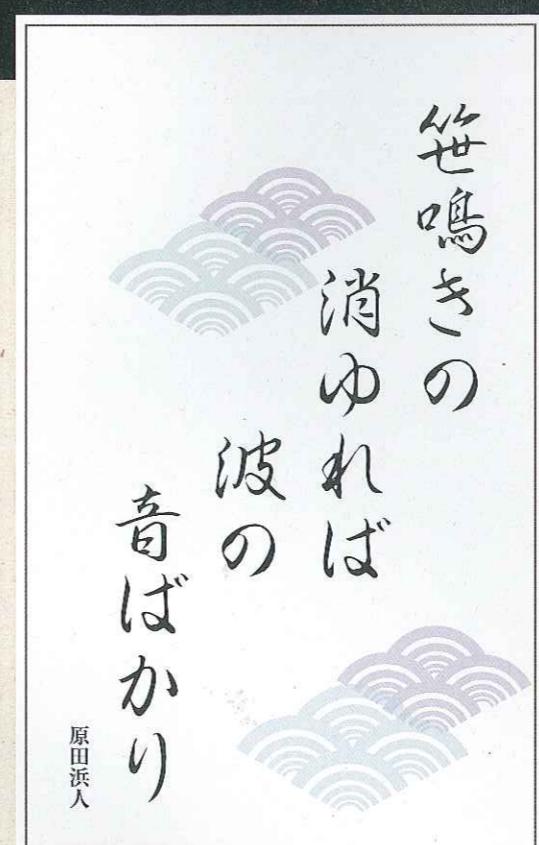
浜松市動物園



1950年(昭和25年)に開園した浜松市立の動物園。ライオンやトラといった猛獣のほか、ニシローランドゴリラやスマトラオランウータンといった靈長類の展示は国内最大級。小型のサル「ゴールデンライオンタマリン」は、日本では浜松市動物園だけしか見ることができない。
住所: 浜松市西区館山寺町199
電話番号: 053-487-1122
HPアドレス: <http://www.hamazoo.net/index.php>
入園料: 午前9時から午後4時30分 大人400円(中学生以下、障害者、70歳以上無料)

句碑・館山寺町地先の湖岸
原田浜人

浜人は浜松出身の俳人、大正から昭和にかけ静岡県下の俳壇をリードした。句誌「みづうみ」を創刊主宰した。大草山に「秋惜しむ松と夕日や館山寺」の句碑があり、弁天島にも「鴨すでに一連とぶやそこの空」の一句を刻んだ石碑が建立されている。

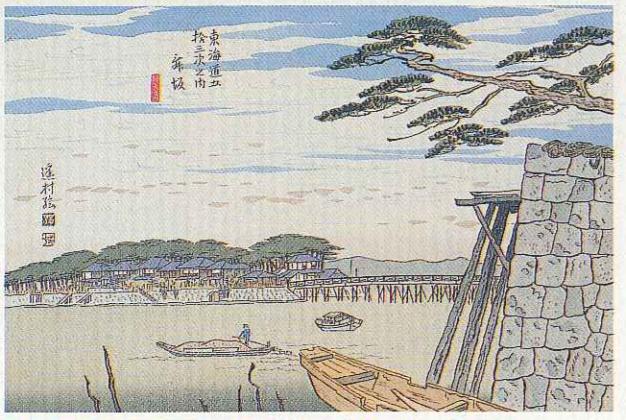


館山秋月

なごやまのしうりうげ
● Tateyamanoshutsugeitsu

館山は江戸時代後期まで
周りを浜名湖の水面に囲ま
れていた島であった。現在で
は、埋めたてにより、庄内半
島の基部とつながり、館山寺
温泉の一角として多くの観光
客を集めている。島であった館山が半島部
と洲によってつながり、往来できた状況が歌川広重の浮世絵によっ
て描かれる。館山は標高五十メートル、全山は珪岩によって
形成されており、湖岸からみた秋の月は内浦の湖面に映え、また松の
影にかかり詩情豊かである。このため、与謝野晶子や北原白秋など数
多くの文人墨客が訪れ、詩文を草し、歌を詠み、句をものしている。
館山とその周辺は秋月だけでなく、景勝の地が多く、江戸後期に著
わされた『遠江古跡図会』には「館山八景」として紹介されている。ま
た、『東海道名所図会』には「遠湖堀江村館山寺」の図として館山を
中心とした鳥瞰図が描かれており、山の頂に富士見岩がみられ、内浦
を挟んで大草山が望まれる。





◆池田遙邨 昭和東海道五十三次「舞阪 辨天島」
昭和6年(1931) 倉敷市立美術館

浜つづき夏のおほそら
はるかにて立つしら浪の
けぶりたるかな

若山牧水

晩年を沼津で過ごした若山牧水も遠江に来て、歌を詠んでいる。「富士よゆるせ今宵は何の故もう涙はてなし汝(なれ)を仰ぎて」等、富士を百首詠んだ牧水には空の歌も多い。この歌は葛飾北斎の木版画作品も思わせるほどに「立つしら浪」が主役となつて、印象的な一首だ。「立つしら浪」のけぶりたるかな」の迫力と躍动感を私たちは味わえはない。牧水にとっては波も胎動する生きものなのだ。

浜名館

依田学海

穩波只道午風柔

穏波只だ道う午風柔かなりと

湖上遙浮一葉舟

湖上遙かに浮かぶ一葉の舟

解纜鷺津僅俄頃

縋を鷺津に解けば僅かに俄頃にして

片帆直到辨天洲

片帆直ちに到る弁天洲

【訳】
穏やかな波とともに
午後の柔らかい風が吹く
湖上には彼方に二艘の舟が浮かぶ
鷺津を出てまだいくばくも経たないうちに
我が帆掛け船は弁天島についてしまった

作者の依田学海は、幕末・明治の漢詩人・劇作家。森鷗外の師としても知られる。学海には「遠州浜名十二勝記」があり、明治三十二年四月(一八九九)、浜名湖を遊覧した際の心境を十二首の漢詩に記した(すべて七言絶句)。本詩はその一首。「浜名館」は鷺津にあった旅館の名。「弁天洲」は弁天島をいう。



撮影地: 静岡県浜松市西区舞阪町舞阪
【JR】弁天島駅から徒歩約3分
【車】東名高速道路
浜松西ICから約30分
三ヶ日ICから約45分
浜松ICから約50分

周辺情報 information

うなぎ

浜名湖のうなぎ養殖の歴史は古く、うなぎ産地としての知名度は全国でもトップクラス。浜名湖周辺には多くのうなぎ料理の店があり、蒲焼や白焼きなどを楽しむことができる。また、舞阪には、「うなぎ觀音」の名で親しまれる魚籃觀音大菩薩像(ぎょらんかんのんだいばさつぞう)がある。

舞阪宿脇本陣

江戸から数えて30番目の宿場にあたる舞阪宿。大名・幕府役人などが宿泊・休憩する本陣の利用が重なって宿泊などができる場合に、本陣の代わりをつとめたのが脇本陣である。普段は、武士や一般庶民が利用する旅籠(はたご)として営業されていた。
住所: 浜松市西区舞阪町舞阪2091
電話番号: 053-596-3715



弁天夕照

べんてんのせんしより ● Bentennoseskishou

弁天島が海水浴場として、また、保養地として脚光を浴びるようになつたのは、明治の中期からで、多くの文人も訪れるようになり、旅館の数も増えていた。島の南岸から見た夕日は遠州灘の雲を赤く染め、美しい風景を生み出している。弁天神社境内に建てられていて正岡子規の句碑は遠江における代表的な存在として知られている。坂宿は宿場であると共に昔から漁業の里として知られ、池田遙邨が描いた絵画には港の周辺を航行する舟が見られる。

天の川濱名の橋の十文字

句碑・弁天神社

遠江における数ある文学碑のうちでも広く知られているのが、浜松市西区舞阪町弁天島の弁天神社境内にある正岡子規の句碑である。自然石に縦に刻まれたこの句は、明治25年頃の作といわれており、建立は大正14年7月5日、発起人は子規の門人であった加藤雪腸(本名:孫平)であった。除幕式には東京から高浜虚子を招き、遠江からは松島十湖をはじめとする俳人50余人が集まった。

式のあと、丸文旅館で記念の句会が催され、選者は虚子であった。



◆ 横山大観・下村觀山・今村紫紅・小杉未醒 東海道五十三次合作絵巻 第六巻(部分)「白須賀・潮見坂」未醒
大正4年(1915) 東京国立博物館 Image:TNM Image Archives

遠江の朝鮮通信使

享保年度の朝鮮通信使の記録である中維翰の「海游錄」(1716年)には、「潮見坂」に至ると道は海に沿っており、「白須賀」では初めて富士山の素晴らしい景色に接したと記している。新井の関所では「国法」による兵器などの取り締まりの厳重であることを伝え、今切は小舟に分乗して渡ったが、その船は漆塗りの豪華なものであったと記す。この今切は、日本人の言う所によると「数百年前に地が裂けて河となった」のだ、と地震、津波を経験したことのない朝鮮の使節としては、この話は本当か、と疑っている様子が窺われる。

「東海道」と讃えられた景勝地「潮見坂」。織田信長が尾張に戻る際、徳川家康が茶亭を新築してもなした場としても知られている。足利義教は室町時代の第六代の將軍だ。三代將軍義満の三男で、義満同様、富士山が好きだった。自ら駿河国へ行き、富士山を遊覧したことでも知られている。他に、「立ちかへりいく年みなかしのばましおみ坂にてふじを見し世を」の歌も残している。

今ぞけふ願ひ満ちぬる
潮見坂心ひかれし
富士眺めて

足利義教

高師の晴靄
眼界曠無際
吹衣万里風
鶴影与帆影
依微煙靄中

眼界
曠として際無し
衣を吹く
万里の風

鶴影と帆影
依微たり 煙靄の中
隼のすがたと帆のようすが
万里の彼方から吹く風が
我がころもをゆらす

【解説】
「高師」はここでは、新居町西に広がる丘陵地を指す。本詩は浜名湖や太平洋を見渡して詠じたもの。地平と天空が広がる雄大な風景を巧みに詠っている。「靄」は霞みやもやをいう。「嵐」もほぼ同義。「曠」は広大なさま。「鶴」ははやぶさの類。「依微」はほんやりと霞むさま。

交通アクセス



撮影地: 静岡県湖西市白須賀
〔車〕 潮見バイパス白須賀ICから約5分

道の駅潮見坂



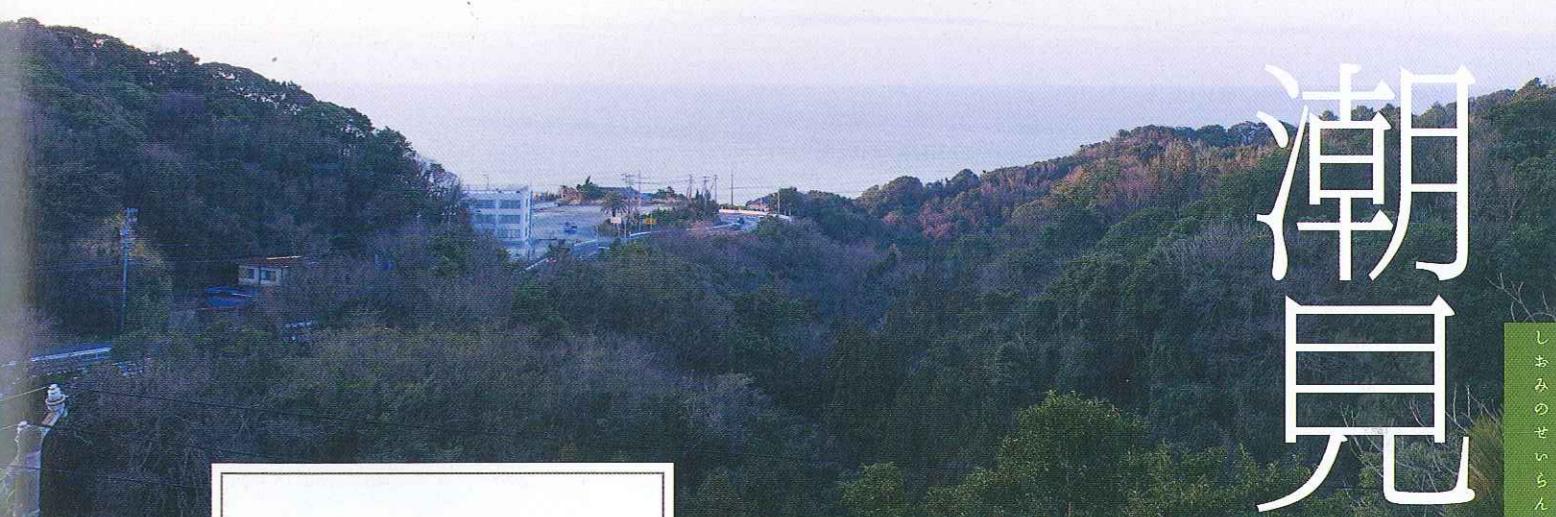
周辺情報 information

展望デッキからの眺めは素晴らしい、遠州灘のパノラマは地球の丸さを実感できます。
近隣でとれた旬の農産物や地元の特産品を取り揃えた売店もある。
住所: 湖西市白須賀1896-2
電話番号: 053-579-3600
HPアドレス: <http://www1.ocn.ne.jp/siom327/>

おんやど白須賀



東海道53次、31番目の宿場
白須賀宿の歴史文化に関する情報を提供しています。
東海道を歩く人々の休憩施設など、新たな文化、交流の発信拠点として活用されている。
住所: 湖西市白須賀900
電話番号: 053-579-1777



雲と見し
花をちからに
登りけり

松島十湖

嘉永2年(1849)、豊田郡中善地村(現:浜松市東区豊西町)生まれ。明治・大正時代に活躍した遠江を代表する旧派の俳人。門人は全国におよび、生涯詠んだ句は8千を超える。代表句は「はま松は出世城なり初松魚」。大正15年7月10日没。

潮見晴山風

しおみのや せいさん

Shiominoseiran

湖西市白須賀元町から潮見観音で知られる藏法寺の門前を通り、寺の西側を台地の上にのびている急勾配の登り道が潮見坂である。室町時代の「富士御覽日記」などにも記されている東海道の旧道で、歌川広重の浮世絵をはじめ多くの絵画に、坂を進む大行列や坂上から見た遠州灘の風景が描かれている。坂上から東方に向かって展開する小高い丘陵地は高師山と呼ばれており、大倉戸の北側から新居宿の西側まで連なっている。潮見坂上や高師山にかけて遠州灘から吹き付ける風は、まさに潮見特有の風情である。高師山から見た晴れた日の霞は文学的情感をかきたてられ、これまでに数多くの詩歌に詠まれている。東海道を東に向かってきた旅人が初めて海を目の当たりにするのが潮見坂上であり、富士を眺望できたのもこの地であった。明治天皇が初めて東京へ行幸されたとき、この潮見坂の上で休憩されたことも知られており、海が見える高台に記念碑が建てられている。



◆安田雷洲 東海道五十三駅
「まひさかいまきれ・あらぬ」(部分)
弘化元年(1844)頃 町田市立国際版画美術館

ふみわけて今もみてしか
遠つあふみ浜名のはしに

ふれる初ゆき

賀茂真淵

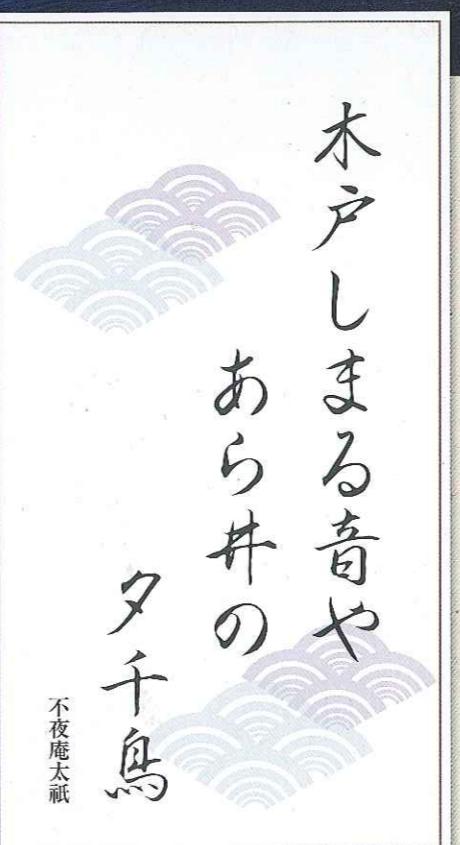
かつて藤原定家が「影たえてしまく水もかすみけり
はまな橋の春の夕暮」と詠み、源頼朝も「かへる浪君
にとのみぞことづてし浜名の橋の夕暮の空」と詠んだ
浜名の橋。清少納言も『枕草子』の中で「橋は浜名の
國一番の印象的なものとして、この歌を詠んだ。」
「はし」も「ゆき」もひらがなにして、やわらかな印象を
与えている。

【解説】
小野湖山は龍谷寺(湖西市新居町)の僧侶
谷紹允と協議して、明治二十四年頃、「浜名
湖八勝」を詠じた。この詩もその一首「多少」
は「どれくらいか」の意。江戸中期の中井竹
山は「舟船齊しく放つ 榜歌(舟歌)の声、
新井関前 海已(はなは)だ晴る。西のかた
白晝(須賀)を去つて唯だ二駅、芙蓉(富士
山)の雪色 更に分明」(「新井の海を渡
る」と詠う)と詠う。

長橋横數里
浜名の長橋 小野湖山
橋下海潮通 長橋 橫たわること数里
行旅便多少 行旅 便あること多少ぞ
追思構造功 追思す 構造の功



撮影地: 静岡県湖西市新居町新居
【JR】新居町駅からタクシーで約10分
【車】東名高速道路 浜松西ICから約30分
三ヶ日ICから約45分 新居町駅から約10分
浜名バイパス新居弁天ICから約5分



江戸中期の俳人太祇がこの句をつくったのは宝暦7年(1757)ごろと考えられている。太祇が遠江でものした作品中の傑作で、旅の感慨が味わえる。「炭」氏を称して「炭太祇」とも呼ばれている。

浜名夕暮雪

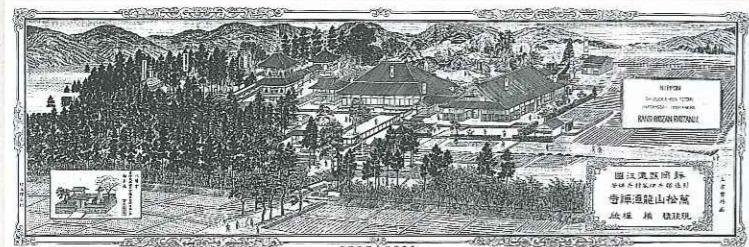
はまなのはくせつ ● Hamananoobosetsu

風土に恵まれた遠江にあっては夕暮れに降る雪の風情はあまり見ることは出来ないが、浜名湖にかかる国道橋や浜名湖の景観は暮雪の情景を彷彿とさせてくれる。小野湖山が撰した浜名八景に浜名長橋があるが、橋が架けられたのは明治に入ってからで、明治十四年地元の財界人の結社「浜名社」により舞阪と新居との間に建設された。弁天島の西側に人工の島を造成、島と島を結ぶようにして橋が渡された。当初は木造の有料橋であった。現在では弁天島から南方を見ると海浜公園の先に鳥居の形をしたタワーがあり、今切口にかけられているアーチ型の浜名大橋が望まれる。

今切渡船の新居側の船着場は新居関所に連結しており、船から下りた旅人は関所を通らなければ通行を許されない仕組みになっていた。朝鮮通信使や琉球使節の行列も関所を通って浜名湖を渡つたのだった。新居の街並は路地が多く、宿場町というより城下町的な情緒を残している。



◆ 東漁舎巴凌寫、片山紫紅刻 日本博覽図初篇
(東京精行舎 明治25年発行)「方廣寺境内行在所 真景」
静岡県明治銅版画風景集(羽衣出版 平成3年発行)から転載



◆ 土方雲外画、村上楳山刻 日本博覽図初篇(東京精行舎 明治25年発行)「萬松山龍潭禪寺」
静岡県明治銅版画風景集(羽衣出版 平成3年発行)から転載

【解説】
『奥山吟詠後集』(明治二十二年)所収の五言律詩の後半である。江戸後期の僧侶・詩人の楚州の作。楚州は大雄寺(浜松市中区天神町)の住職であった。月夜を描いた詩であるので、「雨」は実景ではなく、散り落ち葉の比喩とみなした。対句をなす「霜」も同様に比喩的表現と判断した。

大田南畝(なんば)とも称される作者は江戸時代の文人だ。
漢詩や狂歌、隨筆など、多彩な仕事で知られている。特に狂歌では、唐衣橘洲、朱樂管江とともに狂歌三大家とも呼ばれた。
五山の一つである大福寺の納くは、この頃からすでに名高く、今川や豊臣、徳川など、時の権力者たちにも献納されている。

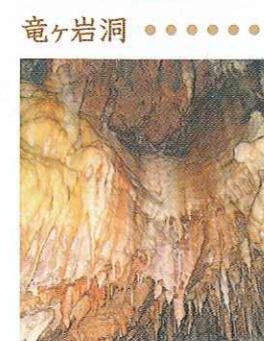
からかわの猫にあらねば
三味線の糸をも引かぬ
浜名納豆
大田蜀山人

落葉千峰雨
奥山に宿す
鳴鐘半夜霜
落葉 千峰の雨
楚州

周辺情報
information

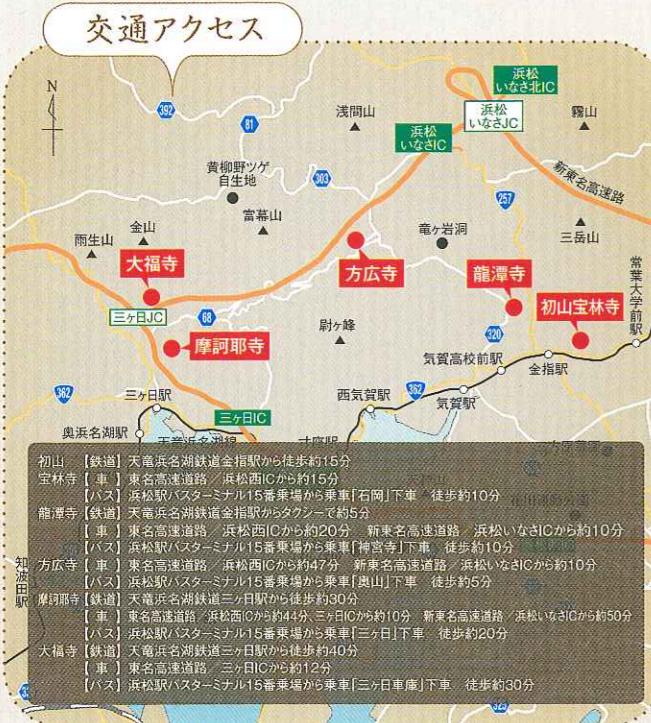


黒砂糖を煮詰めた黒蜜を使った皮で餡を包んだ饅頭。茶色の皮が味噌の色に似ていることから、「みそまん」と呼ばれるようになった。引佐、細江、三ヶ日地域の多くの店でみそまんを販売している。各店によってこだわりの製法で作られたみそまんは、それぞれ違った皮や餡が楽しめる。



竜ヶ岩洞
竜ヶ石山の南麓にある、2億5千万年前の地層が造り上げた大鍾乳洞。延長1,000mに及ぶ洞内のうち400mを公開している。年間を通して18度と快適な温度を保つ空間。落差30mにもおよぶ大滝をはじめ、つらら石や鍾乳石があり、太古より今へと続く大自然の造形にはまだ驚愕させられる。

住所: 浜松市北区引佐町田畑193
電話番号: 053-543-0108
HPアドレス: http://www.doukutsu.co.jp/



大福寺(三ヶ日)



方廣寺(引佐)



初山宝林寺(細江)



摩訶耶寺(三ヶ日)



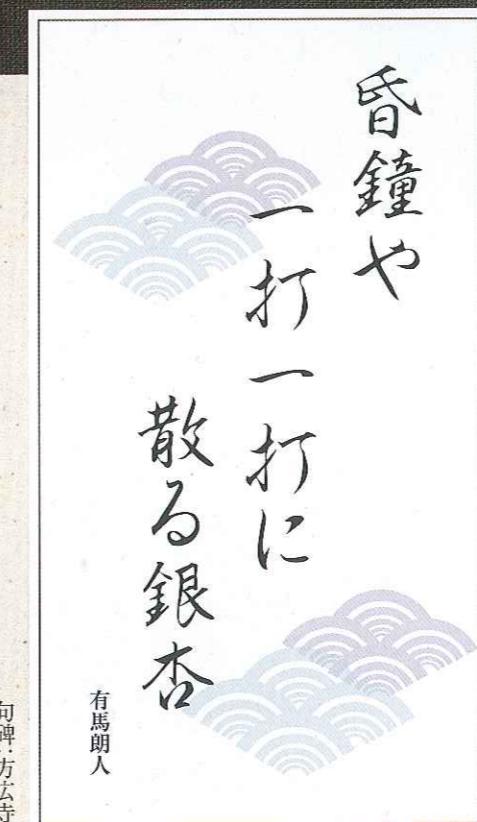
龍潭寺(引佐)

五山

晚鐘

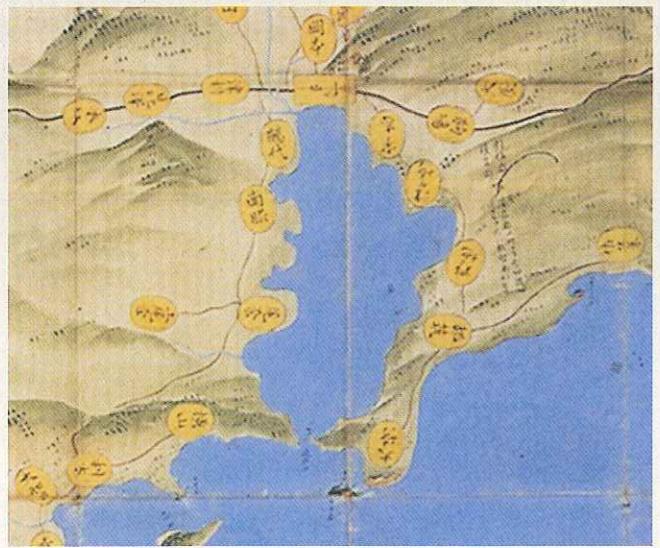
五山とは浜名湖の北に伽藍を構える五ヶ寺をさすものである。浜松市北区に位置しており、西から三ヶ日町・福長町・大坂道(姫街道)を南に越えて引佐・細江にまで伝わる。浜名湖岸には鐘で知られる名刹が数多く、館山八景には「宿蘆寺」が、細江八景には「長樂寺」が、佐鳴八景には「龍雲寺」があげられている。湖面を渡る鐘の響きに対しても、山にこだまする晩鐘が臨済宗方廣寺派の巨刹方廣寺の鐘である。奥山高原を越え、富幕山の峰に響き、三河の山里にまで届くという。

16
Totomi Hakkei



句碑・方廣寺
有馬朗人

昭和5年(1930)、大阪府出身。平成元年東京大学総長、中央教育審議会会長、参議院議員・文部大臣、科学技術庁長官などを経て、18年学校法人根津育英会文藏学園長。22年公立大学法人静岡文化芸術大学理事長。22年文化勲章受章。山口青邨に師事し、日本を代表する俳人のひとりとして活躍。『天為』を創刊・主宰する。国際俳句交流協会会長。



◆ 鱷有飛 遠湖図(部分) 飯田純男氏蔵

遠つあふみ井の花の湖は
夜よもひるもうなてりすなり
ほがらかにして

田辺友三郎

作者は幼年唱歌『モモタロウ』『春の野』の作詩で知られた教育者。晩年に三ヶ日に移住し、猪鼻湖を愛した。「眞白に見えし雪消えて野はおもしろくなりにけり(中略)いつかと待ちし花さきて日も暖かになりにけり友さそい籠さげすみれ摘み蓮華とり遊ぶもたのし春の野に永き日かけの移るまで」(春の野)。こんな詩も書くことのできる心あたたかな詩人だった。



瀬戸夜雨

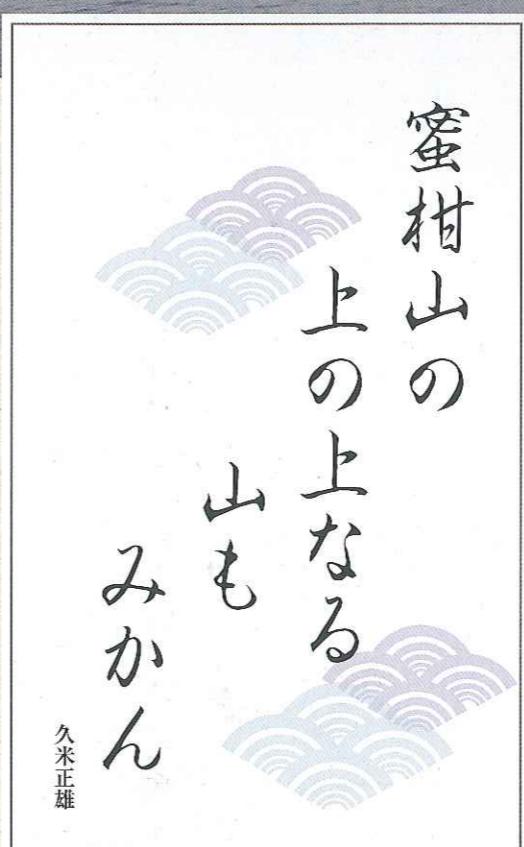
せとのやう・Setonoyau

瀬戸はその昔「迫戸」や「迫門」と書かれていた。奥浜名湖に位置し、猪鼻湖の南の口にあたる。猪鼻湖の北岸は古代の東海道とも呼ばれている本坂道(姫街道)が東西に通っている。万葉

の歌の世界にもこの瀬戸を舞台にした作品が詠まれており、湖口の両岸に岩山が迫り、小野湖山の浜名八景の詩文に「石勢危而險」と迫門の奇巖を評している。

瀬戸の流れは潮の干満によってきわめて速く、水深は十五メートルに達し、浜名湖で一番深い場所であり、素晴らしい景観である。

浜名湖と猪鼻湖とを区切っているのが大崎半島で半島の中央部を県道瀬戸佐久米線が通り、その道路とからむように、旧道ものびていて、一本の道は瀬戸において急接近するが、それぞれ独立した二つの橋によって対岸に渡っている。瀬戸から東南方向を見ると小島が見える。ダイダラボッチの伝承を秘める磯島である。瀬戸の景観は晴天の日もいいが、雨に煙る情景は捨てがたい、突き出た岩の上に祀られている猪鼻の小社は「瀬戸夜雨」の世界である。



小説家であり、劇作家でもある久米正雄は終戦直後の昭和21年12月、三ヶ日を訪れた。地元の文学愛好者の招きを受けて湖北路の土を踏んだとき、折から一杯実をつけたみかん山の景観に圧倒されたのだろう。

【解説】
猪鼻湖と浜名湖を結ぶ水道とその両側にそびえる奇巖を詠じたもの。「迫門」は「瀬戸」。「危」は高くそびえるさま。依田学海もこの地を訪れ、「花明るく柳緑にして人煙(煮炊きの煙)密なり、春麗の桃源」一幅の図と詠じ、この地は桃源郷のようだとその美しい風景を愛でている。

【訳】
岩は高く切り立ち
水の流れは意表を突く
絵師でもこの風景は描けない
私の詩など描写できるわけがない

交通アクセス

猪鼻湖

三ヶ日みかん

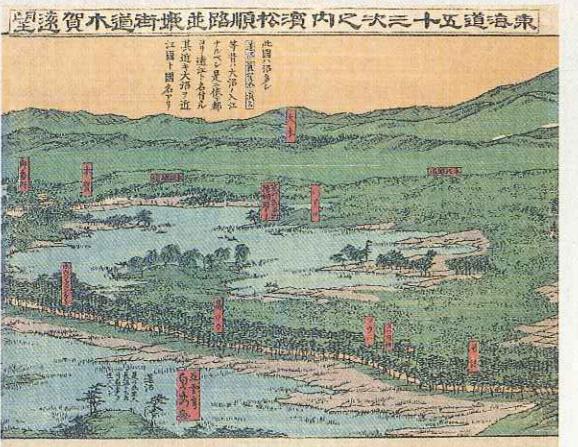
三ヶ日温泉・奥浜名湖温泉

周辺情報 information

句碑・三ヶ日中学校校庭

久米正雄

撮影地: 静岡県浜松市北区三ヶ日町下尾奈
【鉄道】天竜浜名湖鉄道尾奈駅から徒歩約30分
【車】東名高速道路三ヶ日ICから約10分



◆五雲亭貞秀 東海道五十三次勝景
「東海道五十三次之内浜松順路並姫街道木賀遠望」(部分)
万延元年(1860) 早稲田大学図書館

[解説]
『奥山吟詠輯』(乾)(明治十八年(一八八五))所収の作品。作者の(遠州)林蓉舟は未詳。七言律詩十首連作のうち、第六首の前半を引いた。対句の第三句と第四句は細江と奥山の風景を詠じたものである。地名の「細江」「奥山(山)」の「細・奥」が単なる地名ではなく、水のすがた・山のたたずまいをも対比的に描写しており、作者の手腕が光る。

[訳]
氣質の閑所のあたり 際立つこの地
この由緒ある景勝地の近隣にも
興趣がわくところがある
清風明月の細江は詩で言い尽くせない美觀
煙霧雲霞の奥山は絵に描かれたような佳景

万葉集に「遠江引佐細江の濱標(みをつくし)吾を頼めてあさましものを」という歌があるよう、引佐細江は古来、多くの歌人に詠まれてきた。与謝野晶子は「名を聞きて王朝の貴女ときめきし引佐細江も氣賀の町裏」と詠み、佐佐木信綱は「遠あふみ引佐細江の秋風に月影寒くあしの花ちる」と詠んでいる。香川景樹は江戸時代後期の歌人。「春のあけばの」でまとめ、まるで陽射しまで感じられるよくな首だ。

旅にして誰に語らむ 遠つあふみ引佐細江の 春のあけばの

香川景樹

奥山十律(其の六) 林蓉舟

林
蓉
舟

氣賀関頭第一区

氣賀關の頭 第一区

従来勝地興何孤

従來の勝地 興何ぞ孤ならん

細江風月余詩律

細江の風月 第一区

奥嶺煙霞付画図

奥嶺の煙霞 画図に付す

周辺情報
information



浜松市氣賀關所

慶長6年(1601年)に徳川家康によって設置された關所。残存した資料をもとに冠木門や本番所等の建物が再建され、本番所や向番所には等身大の守衛の人形が置かれるなどして、当時の様子が再現されている。

住所: 浜松市北区細江町気賀4577
電話番号: 053-523-2855
HPアドレス: <http://www.kigasekisho.com>



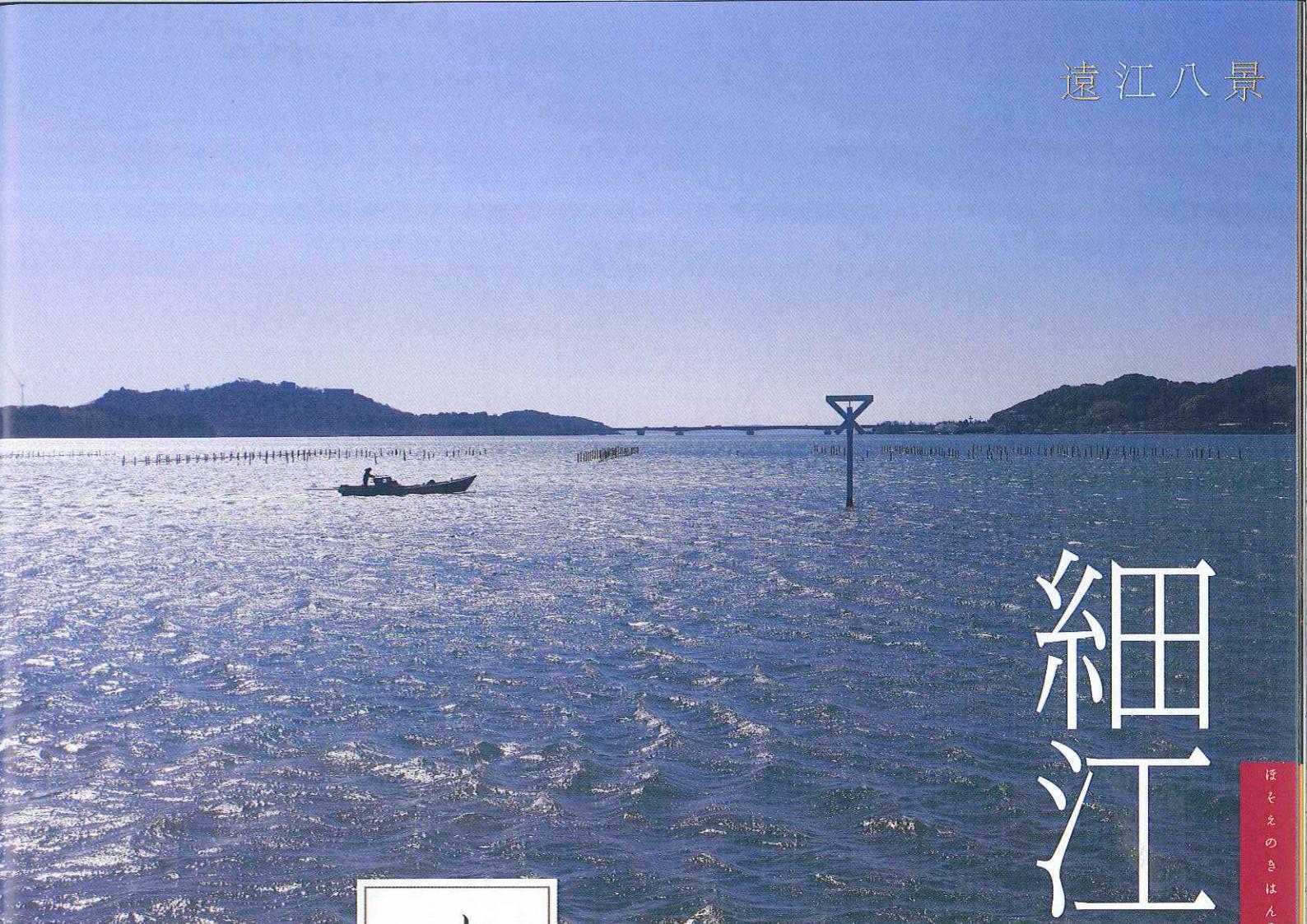
浜松市姫街道と銅鐸の歴史民俗館

都川流域は全国有数の銅鐸出土地であり、姫街道を通行する旅人たちの使った道具や鑑札などのほか、主に細江地域から発見された銅鐸など考古資料類、浜名湖の漁業や遠州豊表などの産業に関するものまで幅広く展示している。

住所: 浜松市北区細江町気賀1015-1
電話番号: 053-523-1456
HPアドレス: <http://www.city.hamamatsu.shizuka.jp/hanahaku/09annex/hakubut03.html>



撮影地: 静岡県浜松市北区細江町気賀
【鉄道】天竜浜名湖鉄道西気賀駅から徒歩約21分
【車】東名高速道路／浜松西ICから約22分
東名高速道路／三ヶ日ICから約12分



細江帰帆

ほそえのきはん ● Hosoe-en o kikan

奥浜名湖にある支湖の一つが細江湖である。一般的には引佐細江と呼び親しまれ、万葉の意欲をそそられる。細江公園文学の丘に建立されている歌碑、文学碑の多くが引佐細江を主題に詠いあげている。引佐細江の北岸寸座から見た湖面の南側には根本山の丘陵がやわらかな展開を見せていて、引佐細江が描かれた絵図として五雲亭貞秀の「東海道五十三次勝景」がある。その勝景図の中の「浜松順路並姫街道木賀遠望」に細江湖が見えている。「木賀」とあるのは「氣賀」のことで、御番所(氣賀関所)も記されており、引佐細江には、五、六隻の舟の影が見える。帆の舟であろうか。

大空のなかより帰る白帆かな

句碑 細江神社

淡庵

細江神社境内にある細江八景の句碑は、明治30年浜松市北区細江町氣賀の俳人思之庵雲泉(本名鈴木角平)によって建立されたもので、雲泉が氣賀近隣で活躍した俳人たちの顕彰を意図したものであった。

碑の一行目にあげられている細江帰帆の句をもとにした淡庵は、この地の先覚者で産業経済面に大きな足跡を残した氣賀林の号である。明治十四年淡庵に対する寿辞を集めた「百里園風光」と題された和本には淡庵自身も詩文を発表している。淡庵は文人として的一面も持っていたのである。

奥浜名湖にある支湖の一つが

細江湖である。一般的には引佐細江と呼び親しまれ、万葉の意欲をそそられる。細江公園文学の丘に建立されている歌碑、文学

碑の多くが引佐細江を主題に詠いあげている。引佐細江の北岸寸座から見た湖面の南側には根本山の丘陵がやわらかな展開を見せていて、引佐細江が描かれた絵図として五雲亭貞秀の「東海道五十三次勝景」がある。その勝景図の中の「浜松順路並姫街道木賀遠望」に細江湖が見えている。「木賀」とあるのは「氣賀」のことで、御番所(氣賀

関所)も記されており、引佐細江には、五、六隻の舟の影が見える。帆の舟であろうか。

浜名湖周辺の句碑・歌碑

番号	種別	詠人等	所在地
1	句碑	加藤雪陽	渚園
2	句碑	正岡子規	弁天神社
3	句碑	松島十湖	
4	詩碑	種田山頭火	弁天島海浜公園
5	歌碑	清水みのる	新居弁天海浜公園
6	歌碑	井上通女	大元屋敷跡
7	歌碑	賀茂真淵	湖西市立新居図書館
8	句碑	種田山頭火	新居駅西方 100m 緑地帯
9	歌碑	不夜庵太祇	新居関所
10	歌碑	藤原定家	浜名川・日ヶ崎地区親水公園
	歌碑	源賴朝	愛宕山山頂
11	歌碑	藤原為家	
	歌碑	阿佛尼	市道仙川大倉戸線沿い
12	歌碑	鮎有飛	恵比寿神社
13	歌碑	夏目透齋	蔵法寺
14	句碑	五味東俄	清源院
15	歌碑	北原白秋	
	句碑	星野立子	本興寺
16	句碑	菅沼夢溪	磯島
17	句碑	百合山羽公	宝珠寺
	句碑	経郷	
18	歌碑	万葉集（詠人知らず）	乎那の峯
	歌碑	万葉集（詠人知らず）	
19	歌碑	万葉集（詠人知らず）	三ヶ日中学校
	句碑	久米正雄	
20	歌碑	田辺友三郎	津々崎猪鼻海岸
21	句碑	富安風生	野地城址南側
22	句碑	大町桂月	大崎半島（琴水館前庭）
23	句碑	大谷句仙	三ヶ日町岡本・夏目家庭園
24	句碑	松島十湖	三ヶ日町平山・木下家庭園
	句碑	松島十湖	
25	句碑	松島十湖	
	句碑	空水	三ヶ日町福長・清水家庭園
	句碑	松島十湖	
26	句碑	清水善慶	
	句碑	清水善慶	三ヶ日町平山・才ノ神
	句碑	空水	
27	句碑	菅沼夢溪	瓦塔遺跡
28	句碑	清水善慶	風越峠
29	句碑	清水善慶	引佐町奥山
	句碑	有馬朗人	
30	歌碑	与謝野晶子	方広寺
	歌碑	無文禅師	
	歌碑	後醍醐天皇	
31	句碑	柳園成佳	姫街道沿い（プリンス岬付近）
32	詩碑	清水みのる	五味半島（プリンス岬）
33	句碑	里村紹巴	葭本川河口付近（水門付近）
34	歌碑	山田無文	金龍寺
35	歌碑	万葉集（詠人知らず）	小森橋南詰土手
36	歌碑	山田無文	金地院
	句碑	山静	
37	句碑	松島十湖	長楽寺
	詩碑	清水みのる	
	詩碑	佐藤春夫	
38	詩碑	白柳秀湖	文学広場
	歌碑	香川景樹	
	歌碑	与謝野晶子	
	歌碑	千載集（詠人知らず）	
39	歌碑	与謝野晶子	浜松市北区役所屋上
40	歌碑	香川景樹	都田川北岸 堤
41	歌碑	佐佐木信綱	都田川北岸 落合橋付近
42	歌碑	河合象子	都田川南岸 みをつくし橋付近
	句碑	松島十湖	
	句碑	淡庵	
	句碑	咲女	
43	句碑	耳洗	
	句碑	且雪	細江神社
	句碑	松歳	
	句碑	竹佳	
	句碑	成佳	
	句碑	橘蔭	
44	句碑	松島十湖	東林寺
	歌碑	与謝野晶子	
	歌碑	天皇陛下（皇太子のころ）	
45	詩碑	清水みのる	細江公園
	歌碑	万葉集（詠人知らず）	
	歌碑	吉野江水	
	歌碑	竹田智是	
46	句碑	水原秋櫻子	井伊谷宮
	歌碑	宗良親王	
47	句碑	松島十湖	実相寺
48	句碑	松島十湖	姫街道 曲り松付近
49	句碑	原田浜人	大草山
50	歌碑	北原白秋	館山寺町湖岸
	句碑	原田浜人	
51	歌碑	石塚龍麿	浜名湖ペイガーデン
52	歌碑	賀茂真淵	村櫛町地先の湖岸
53	歌碑	鷹野つぎ	村櫛町地先の湖岸
54	歌碑	竹村広蔵	中之島

